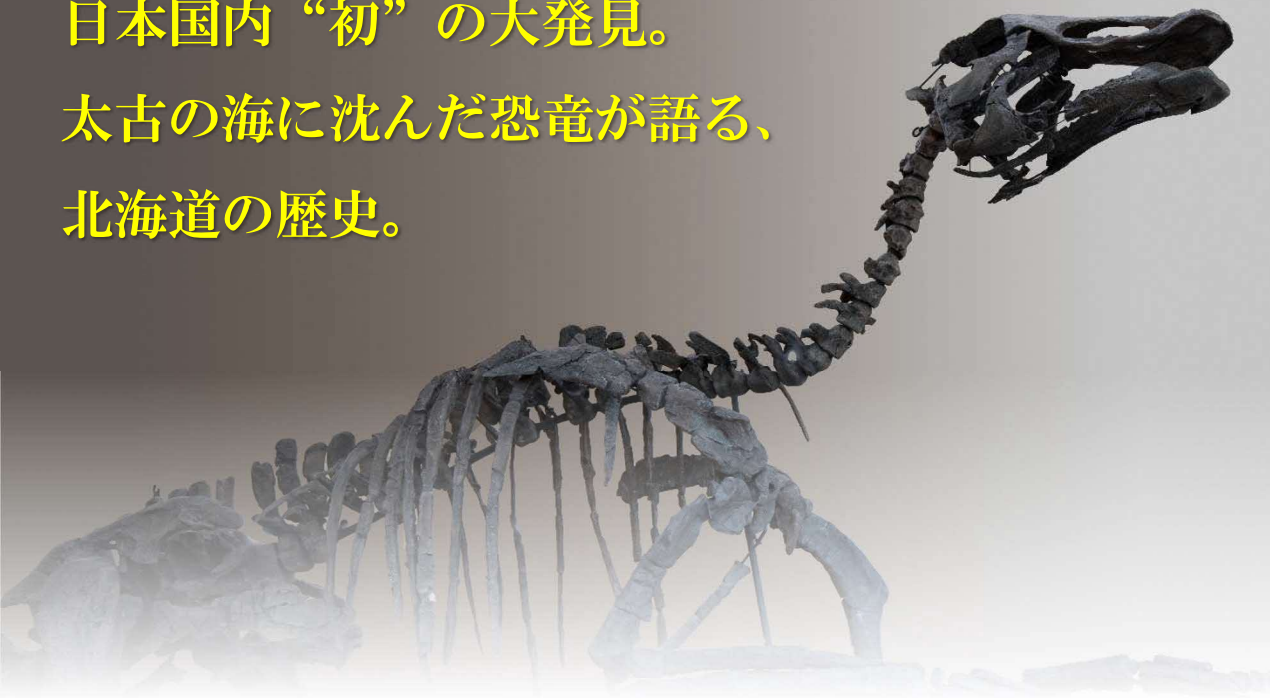


日本国内“初”の大発見。

太古の海に沈んだ恐竜が語る、

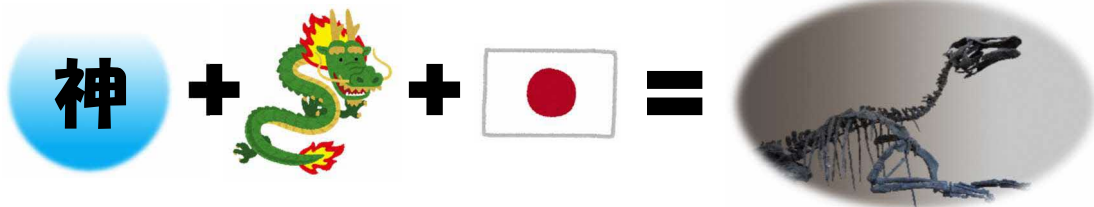
北海道の歴史。



むかわ町穂別で、約7,200万年前（白亜紀後期）の海の地層から発見された、恐竜化石「むかわ竜」。

全長8mの骨格のうち、8割以上という高い割合で骨が残った、大型恐竜の全身骨格化石の発見は「国内初」であり、海の地層から発見された恐竜の全身骨格も「国内初」です。

その後、ハドロサウルス類の新属新種と認定され、アイヌ語で神を意味する「カムイ」、ラテン語でトカゲや竜を意味する「サウルス」、そして、ラテン語で日本を意味する「ジャポニクス」からとり、「カムイサウルス・ジャポニクス」と命名されました。



いぶり古代遺産 ～むかわ竜～

むかわ竜が発見されたむかわ町穂別は、太古は海だった場所です。恐竜は陸の生き物ですが、むかわ竜は海に流されて海底に沈み、そこで埋まって化石になったと考えられています。

見つかった化石を並べるだけでおおよその姿が分かる全身の骨格化石は、まさに日本の恐竜研究の歴史に刻まれる大発見でした。

口の前からしっぽの先まで全長約8m、地面から背中の上まで約3.8m、体重は約4～5.3トンと推定され、身近なものだと、サッカーゴールや消防車よりも大きいむかわ竜は、現在のところ日本最大の恐竜全身骨格化石です。



どう頑張っても、サッカーゴールには収まりません

穂別博物館では、むかわ竜の骨格の一部のほか、白亜紀後期に生息していた首長竜やモササウルス、アンモナイト、イノセラムスなどの貴重な化石を見ることができます。

北海道 いぶり**五大**遺産
トップページに戻る

A hand cursor icon pointing towards the 'Return to Top Page' button.